

様式1 (データ利用許可申請書)

平成 年 月 日

日本救急医学会OHC A特別委員会委員長 様

(住 所) 〒

(所属施設)

(申 請 者)

(メールアドレス)

(施設責任者)

日本救急医学会多施設共同院外心停止レジストリ

データ利用許可申請書

日本救急医学会多施設共同院外心停止レジストリデータ利用要領第3条に基づき、関係資料を添付し申請します。

なお、データの使用及び管理にあたっては、当該要領を遵守し適正に行うことを誓います。

※学会報告・論文作成およびその他の目的で日本救急医学会多施設共同院外心停止レジストリデータを利用しようとする場合は様式1-2及びその他参考となる資料を添付してください。

※単一施設以外で申請する場合には、(所属施設)にグループ名、(施設責任者)にグループ長を記載してください。

※住所にはデータ送付先の記入をお願いいたします。

様式 1 - 2 (データ利用許可申請書)

項目	記入欄 ※赤字は記入例です	備考
学会報告・論文 テーマ	PCAS 患者において発熱コントロールは神経学的 転帰を改善するか？	
研究・調査等 の趣旨、目的	PCAS に対して欧米で実施された大規模な RCT に おいて 33℃と 36℃の体温管理療法で神経学的転 帰に有意差がないことが報告されている。ただ最 適な冷却目標体温については十分に検討されて いない。本計画では我が国における冷却目標体温 の実態と目標体温と転帰の関係を比較検討する。	
具体的な内容 (PI(E)CO 形式で記入)	<p>Patient/ Population (患者) : 参加施設に搬送され た内因性 OHCA で自己心拍再開したすべての成 人患者</p> <p>Intervention/ Exposure (介入・暴露) : 体温管理療 法 (目標体温 32℃~36℃)</p> <p>Comparison (比較対照) : 体温管理なし</p> <p>Outcome (結果) : 退院時 (30 日後、60 日後など) の神経学的転帰良好率、生存率</p>	別紙記載可
予想される成果	体温管理療法ありの群で、体温管理なしの群より転 帰が良好となり、体温管理療法の有効性が示され るとともに、32℃でも 36℃でも転帰に有意差なしな ど目標体温設定にあたって参考となる情報を得る。	別紙記載可
利益相反 (Conflict of Interest)	なし	
報告予定の学会、雑誌等	<p>学会、雑誌等の名称 : 日本救急医学会総会、AHA 蘇生科学シンポジウムに発表後、Resuscitation 誌などに投稿を予定。</p> <p>開催 (掲載) 日程 : 2017 年</p>	
使用するデータの範囲 及び管理方法	使用データの期間 : 2014 年 6 月 1 日~2015 年 12 月 31 日	
この研究にあたって参考と なる業績・研究体制	(関連する業績、研究履歴を具体的に記載)	別紙記載可

※学会報告・論文作成以外にデータを利用する場合には「学会報告・論文のテーマ」の記載は省
略可。「研究・調査等の趣旨、目的」にデータ利用目的を記載すること。